グランドソフトボールとは？

グランドソフトボールは視覚障がい者が行う野球競技で、日本生まれのスポーツです。
全盲・弱視・晴眼（視覚障がいのない人）の選手が入り混じり、
障がいの程度に応じたルールを、耳をすまして上手く活用しながら駆け引きを繰り広げる、
他のスポーツにはない感覚を体験できる奥深いスポーツです。

魅力 1
迫力！

晴眼の野球経験者でも三振してしまうような剛速球、転がってくるボールに向かって全ての神経を集中して行われるフルスイング、打者の足元から空をさいて飛んでいく鋭い打球、コーチャー（指示者）を信じて全力疾走する選手など、息をのむ場面がたくさんあります。スピード感があふれる迫力満点のスポーツです。



魅力 2
戦略性！

視覚障がいの程度に応じたルールが設けられているため、打順や守備ポジションの戦略でゲームの流れが大きく左右されます。状況に応じてチームとして適切なプレーを選択することが勝利の必須条件です。チームメートが声で指示することが制限される中、全盲者が音や感覚を頼りにボールをキャッチしたときは、会場が沸く感動的な瞬間の一つです。



魅力 3
仲間ができる！

障がいの程度に関わらず一人ひとりが得意なところで100%の力を発揮し、チームに貢献しあって勝利が近づく競技です。自然と強い絆が生まれてチームはまるで家族のような存在になります。老若男女みな楽しめるスポーツなので幅広い繋がりができます。山梨チームの最年長は60歳を超えていますが、バリバリのレギュラーです。



グランドソフトボールの基本ルール

基本的には野球に似ていて、1チーム10名（そのうち、全盲者を4名以上）でプレーします。全盲者の中には「見えているのでは？」と思われるほどすごいプレーをする選手がいるため、「見えていません」ということを示すためにアイシェード（目隠し）をすることになっています。投手は全盲者が担い、捕手は投球前に手をたたくことでストライクゾーンの場所を伝えます。使うボールはハンドボールに似ているもので、中に鈴などは入っていません。地面を転がってくるかすかな摩擦音を頼りに、バットで打ちます。守備の最大の特徴は、全盲選手はゴロでもボールが動いている間にキャッチすればアウトにできることです。全盲選手は音を頼りにプレーするので、プレー中は不要に大きな音や声を出すのは禁止されています。

走塁では、コーチャーが手ばたきで塁の場所を知らせます。走者と守備の衝突を避けるため、ベースは走塁用と守備用に分かれています。



全盲選手は、ボールが地面についても動いている間に捕球すればアウトにできます。



投手は全盲者。投球は、3バウンド以上でホームに届くように転がします。



プレー中に守備側が投手板の周辺エリアにボールを持ち込むと走者の進塁を止めることができます。

観戦者は、捕手の手ばたきが始まったら静かに観戦して、プレーが一段落したところで声援を送ります。

捕手は、手ばたきで投手にストライクゾーンを伝えます。全盲選手が打者の場合は、球の半分以上浮いた場合はボールになります。



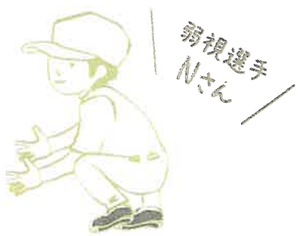
実際に聞いてみました！ グラソフの選手の声①



競技で楽しいことは？

少年時代から目が見えなかったため、気軽に取り組めない球技に憧れがあり、盲学校でグランドソフトボールに出会ってすっかり好きになりました。障がい者スポーツとは思えないスピード感と迫力が一番楽しいところです。ゴロだけでなくライナーも音がするのです。晴眼者でも簡単には打てないような場面で、ホームランを打ったときは最高ですね。全盲者の働きで試合の流れが変わることも多いので、試合展開にワクワクしますし、やりがいがあります。

実際に聞いてみました！ グラソフの選手の声②



競技で楽しいことは？

視覚障がい向けの球技は激しくなさそうなイメージだったのですが、いい意味で予想が外れました。野球と同じでとても活発なスポーツです。私は強度の弱視なのですが、軽度の弱視者と同様に弱視ルールが適用されて不利に感じることもあります。それでも、チームの足を引っ張らないぞという気持ちで工夫して取り組んでいます。